

されほどのものかはかり知ることが出来ません。充分に用意された環境、見事に統整された保育の組織、日常の不斷の周到なる保育活動等によつて総合的に求められた極めて貴い成果があると思ひます。我々の簡単な家庭生活に於ても、直接に叱り飛ばして躰をすることは、最も手近で容易であります、全く叱らず父も母も表面に立たずに、見事な躰をなすことが、幾十倍困難であるかは、はつきり想像することが出来ます。

感謝の二年間

四十郎もお蔭でこの春は幼稚園を出て、小學校に通ふことになりました。何よりも嬉しく、先生方に御禮を申し上げたいのは、二年間たゞの一度も病氣をせず、小學校の入學試験を受ける時にも威勢よく試験醫官の前に出られたことです。丈夫に育つていろいろ怒も出ますが、誰も同じやうに子供については、學校の成績が善くても悪くても、身體

* * * * *

明日の幼稚園を楽しんで寢につき、朝起きては幼稚園に行く支度をいそぐに進め、夕食の貧しき膳にも、今日の幼稚園のおもしろかりし物語に一同打興じます。この中にすく／＼正しく伸び行く幼児を見るべき、眞に生甲斐を感じることに、此のよろこびを與へ給ふ我が幼稚園に満腔の感謝を捧げずにはゐられません。

緒方こころ子

の丈夫なこころが何よりです。殊に、私の宅では長男が非常に弱くて、幼稚園にも通ひ得ず、次男も長女もそれ／＼病氣では苦い経験を有つて居りますので、健康で元氣で發育期の二年間を過したことに、言葉にいひ盡せぬ感謝を有つて居ります。よく亡くなつた父が、子供の健康な時が人生一番仕合の時だを申し居りましたが、子供を育て、見て

今さら父の述懐を思ひ起します。

私共では、學校の効能は學問より友達を得るこゝだこゝ主人が申します。先生の前でこんなこゝを申上るのは失禮かも知れませんが、人間は結局素質が七八分で、教育で素質を改め得るのは眞正に僅かのやうな氣が、自分自身の經驗から致すのであります。しかしその素質をすく／＼伸すこゝろに、又教育の大きな効果があり、それだけでも却々容易なこゝでないやうに考へます。その點からはい、幼稚園に入れ、いゝお友達の間を生長して、知らず知らず感化を受けるこゝが何より大切のやうに、素人ながら考へるのです。主人が學校の効果はいゝ友達を得るこゝを申すのは、幼稚園でも一つの子供の社會として、違ひの有りやうはありません。そこで長男や次男の場合には流儀を變へて、四十郎の場合お茶の水にお願ひしたのが、今より考へて何よりの仕合でした。二年間たゞの一度も病氣をしなかつたのは學校の設備がいゝ結果も勿論ですが、お友達のよかつたこゝも主なる原因だつたのではないかと、こんなこゝも考へるのです。

願つた通りに四十郎は幼稚園が好きになりました。この自分の周圍を愛する心持が、今後小學校に進んでからも、大きくなつて世の中に出てからも、一番大事な心持だと思つて居ります。四十郎は獨りボッチが好きの少し變つた性質の子で、初めは幼稚園に行くのもあまり好きでなく、行つてもお友達と馴染みにくいやうな風でしたが、先生のお引廻しで、だん／＼幼稚園やお友達が好きになり、殊に卒業實際の半歳ばかりは、面白くて面白くてたまらぬといふ風があり／＼見えてゐました。あまり幼稚園であつたこゝを歸つてお話せぬ質でしたが、それでも幼稚園に通ふ嬉しさ樂しさが目に見えました。

如何に四十郎が幼稚園生活を楽しんでゐるたかについて、こんなこゝが有つたのです。私共では四十郎の小學校につきいろ／＼考へた結果大塚の高師附屬成蹊を受験させるこゝにしました。大塚の試験が先きで受験の結果幸ひに許可になりました。するに四十郎はもう大塚へ這入れたからいゝ、成蹊の試験を受けるのは厭だを申すのです。しかし宅から通學の便宜に高等學校への聯絡を考へるに、若

し出来れば成蹊に入りたい、出来ぬまでも試験だけは受けさせよう——多少親の道樂氣も手傳つて——無理に成蹊を受けさせたのです。ところが幸か不幸か成蹊も許可になつたのです。するに肝腎の四十郎は表立つて成蹊に反對もしませぬが、何とんでも大塚を斷念しないのです。成蹊の話をするに厭な顔さへします。本來が少しつむじ曲りで、言ひ出すになか／＼聽入れぬ質なので、已むを得なければ先生から御説得を願はう、當分はむしろ勧めまいと暫らく問題に

觸れずに置きますと、ある日のことです。急に僕はもう小學生になるのだから赤ン坊の玩具はみなきぬ(女中の名の弟に遣つて仕舞はうと、自分の戸棚を片付け、可愛がつてゐた犬の玩具を取り出して、これはなか(女中の名)にやるのだから今日はお別れに一晩一緒に寝るのだといつて、むく犬を抱いて寢ました。妙なことをいふと思つてゐたら、この

母の言葉

前後、大塚を斷念して成蹊に行く決心をしたらしいのです。それからは成蹊にも申しませぬが、大塚々々頑張らぬやうになりました。その時はそんなに迄楽しんでゐた大塚に別れさせるのかと、少し可愛想な氣がしました。

二年間お世話になつて、振り返つて考へますと、薦の子は薦にしても、朗かに伸び／＼と生長し、殊に病氣一つしなかつたのは何と云ふ仕合かと、感謝の念で一杯です。幼稚園は子供の智慧を附けるところといふより、健康に朗かに子供を育て、戴くところと豫てから考へて居るのです。智慧は抛ついても附くが、健康に朗かに育てることは、私共の少い経験から申しても、決して容易のことではありません。それが豫期以上丈夫にしていたゞき、今幼稚園にお別れするに當り、ごちらの小學校にしようかなと贅澤を申して居るのであります。こんな仕合が又とありませうか。

西川 ぎよ子

哲彦を幼稚園に通はせ始めてからもう二年といふ年月が

経たうとして居ります。二年と云へば長い様で短い年月で